



▲冒頭であいさつを述べる中田市長

農商工連携事業の一環として、「売り出そう！南あわじキャンペーン推進協議会」が

売り出そう！南あわじキャンペーン

- 7月15日、南あわじ市役所中央庁舎で開催されました。この会議では、国の経済対策を活用して、今後10月～12月の実施を目標に、次の3つの事業を行うことが決まりました。
- ①小学生のいる家庭に地元産特選米こしひかりを配布
 - ②地元の特産食品を宅配する「ふるさと特産物宅配便」
 - ③都市で農水産物のPR販売をする南あわじ市物産展

青少年育成市民会議

青少年健全育成市民会議が7月10日、西淡公民館で約300人が参加して行われ、「子育て家庭応援推進員」の委嘱状の交付や、まちをあげての声かけ運動への参加などが呼びかけられました。

淡路島出身で神戸連合淡友会会長の長手淳氏の講演では、島から離れてみて考えるふるさとへの想いや、次代を担う青少年への思いを自らの体験を通じて紹介。会場での質問に対し、「子育てには、だめなものだめと言えない殺



▲講演に耳を傾ける参加者

然とした態度が必要。父親として、時には子どもにも向き合えないといけない」と話していました。

下水道出前講座

下水道の役割を学んでもらうため7月9日、賀集浄化センターで、市職員が講師となり、この日参加した賀集小学校の児童24人は、施設見学などを通じて、水がきれいになる仕組みを学びました。

●下水道の早期接続をよろしくお願します。



▲施設見学をする児童たち

ふるさと納税

ご寄附ありがとうございます。

ふるさと南あわじ応援寄附金

寄附状況の公表 (7月16日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	223件	29,303,219円
市外(島内)	28件	1,716,000円
市外(島外)	115件	9,749,940円
合計	366件	40,769,159円

詳細は市のホームページで掲載しています

ふれあい市長室

神戸大学と連携・交流協定を締結

南あわじ市長 中田勝久

このほど、神戸大学大学院国際文化学研究所と「連携・交流に関する協定」を締結しました。その内容は、淡路人形浄瑠璃などの文化を大学院生らが研究し成果を地元へ還元することや、少子高齢化や外国人居住者の増加など現代社会が抱える課題を共同で調査し、地域貢献活動を含めた相互協力、ボランティアや講師の派遣など、一つの課題解決や地域活性化に繋げようとするものです。

今、このすばらしい南あわじ市の伝統文化、特産品、自然景観などの「ふるさと資源」をいかに売り出すかに力を注ごうとしております。言い換えれば、歴史や生き立ちを知り、魅力を整理し、何を発信し、消費者及び都市生活者の支持を得るかのマーケティングと交流によるふるさとのファンづくりが大切になっております。

現在、全国各地で産官学や都市と農村との連携、企業と自治体との協力などさまざまな取り組みが行われ、成功事例も増えてまいりました。

これは、個人や地域だけの努力だけでは限界があり、知的資源やネットワークの有効活用、マーケティングのノウハウや技術の習得を素早く効率的に行う手段であり、結果を生み出す手法として効果的な活動であります。

つまり、自分だけが賢く絶対的だという考え方や井の中の蛙から脱却し、貪欲に様々なものを吸収しながら進化させてゆき、色々な方々のネットワークや組織を味方につけることができるか否かにかかっております。

行政が先頭に立ち、机上で考える時代は終わりました。市民個々の潜在能力やふるさとを思う心、このままではどうにもならないという危機感を結集し、南あわじ市をまるごと売り出し、新しいものを生み出していきたいと考えております。

市民の皆様におかれましては、今まで積み上げてきた成果と新しい時代に対応した変革を融合させ、創意工夫により具体化させるため共に頑張りましょう。

トライ・やるウィーク

～私たちの職業体験～



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

(体験の説明)
①車のオイル交換②保育体験③警察署で防衛術訓練④図書館事務を体験⑤瓦板作り⑥温泉施設で調理⑦学童保育で勉強を指導⑧農協でコンテナ整理⑨ガソリンスタンドで接客

一本釣ぬしあじフェア

自慢のアジをPR

潮流の変化に富んで鯛や八毛など様々な魚の息をする豊かな漁場の沼島。その沼島周辺の漁礁に棲み付いて栄養たっぷりに育った鱈は、他の回遊してきた鱈と比べて脂の乗りが違い、地元漁師は「ぬしあじ」と呼んで大切にしています。

一本釣り漁法で釣り上げられ、5月から10月が旬の「ぬしあじ」。その自慢の鱈をPRしようと「ぬしあじフェア」が7月19日、イングリッドの丘で開催されました。



▲焼き鱈を振舞われる来場者

1500匹の鱈を地元漁師らが、焼き、刺身、たたきの料理で来場者に振舞いました。夏休みに入り家族連れも多く、焼き鱈が間に合わない盛況ぶりです。多くの人が新鮮で美味しい鱈を堪能しました。

中学2年生の就業体験「トライ・やるウィーク」が5月～7月に行われ、市内7校の536人が地域で活動しました。

この活動は、学校生活を離れ、社会でのマナーやルールを直接体験できる活動として実施。生徒らは働くことの厳しさや楽しさ、やりがいや学び一週間となりました。